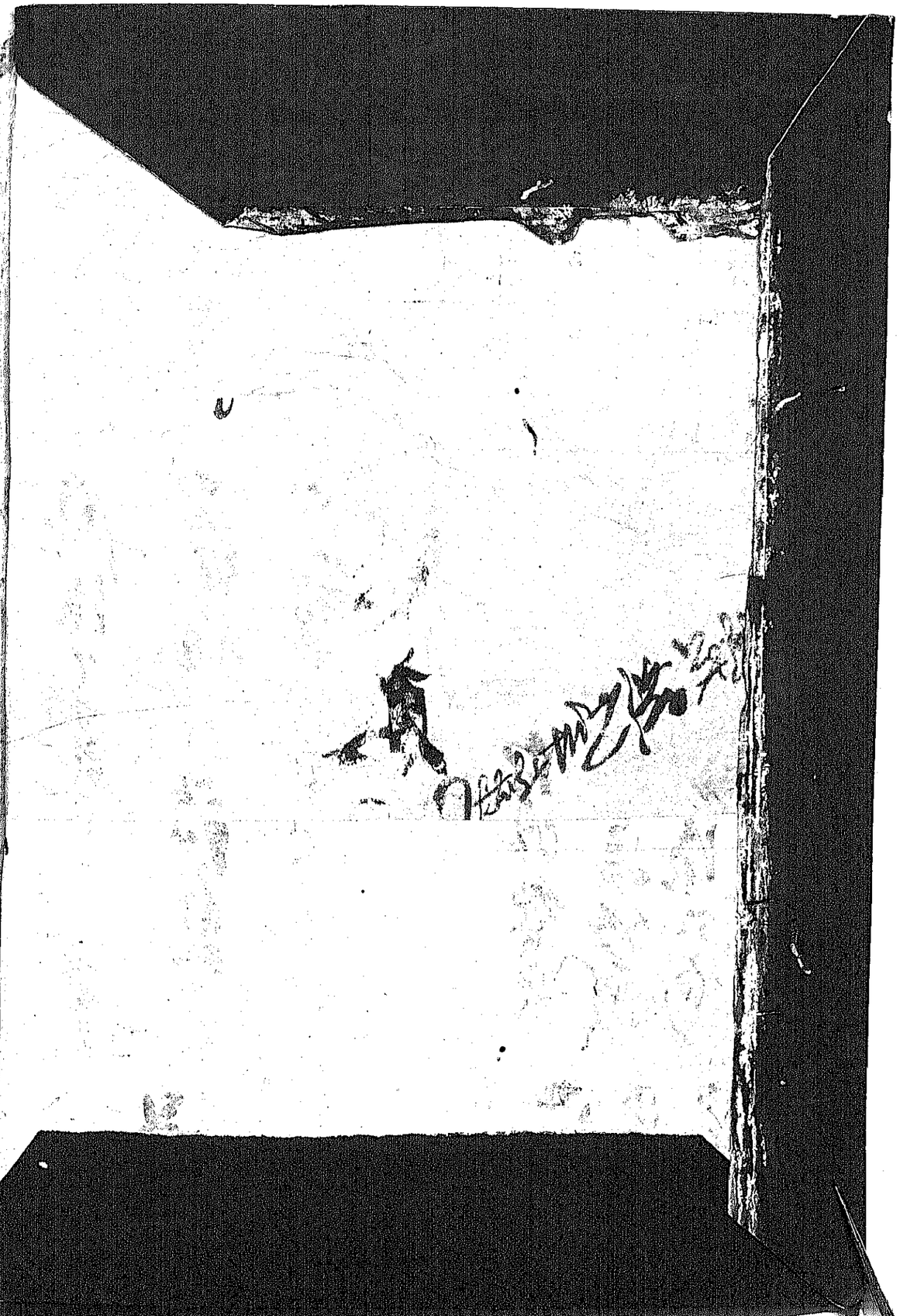
竹嶋渡海由來記抜書

2
2
71

15325

竹鳴濱海山房紀被書

岡島文庫



一私先祖ハ慶元和四九右衛門府長清ト申者ニ故有テ但州
大谷ニ致蟄居ス時伯州倉吉郡尾高城ニ於テ播磨寺
殿迎ヒ直ニ依命養成嫡孫玄番腸實ヲ尚ノ秘ス地名
取大谷玄番ヲ号加勢ニ差出ス処惜哉玄番播磨寺盛重公
卒去依目論ヨリ終ニハ断絶ニモ可及ト有ル捨再但州江被
隠ス其后永禄年中玄番長男稲九右衛門勝宗ニ嫡
孫ニ当ル者ト共ニ茅子潟ニ引越住居為仕私祖業ニ
専ラ不怠後国ヨリ帰忠ニ和ラ風行鴻ニ輝流高名今ニ

巡り数方不堪思議不朝鮮國相隔五百拾里ヲ人家更ニ
無之ニ付而勢ヒ品有之候ハヽ海上百五拾里ヲ日程漸滿山下ニ歸帆共須
因伯御支寺 新大郎様御知行高御城代河内守様
被成而早速御注進申上ニ成右之通被仰渡御注進
御帰府為立別御渡海御発ニ御奉書
御上洛元和元年竹島渡海御発ニ御奉書乃慶長年
竹島渡海御発元和元年ニ同之意傍毎年渡海仕先
御公儀ニ貢物上納雖不仕ニ滿之宜ニ付ニ渡海見届
日和ニ付使者御式帳被成ニ被授拝ニ付御祝儀
国益二三年振又ハ
八九年目ニ来勤
公方様江相礼 御目見為 作右ヱ門殿御時腹
御府ヲ目降候竹島渡海ニ私江ハ御役所ヲ不洋候
為 作右ヱ門冥加至ル時元禄九年竹島渡海御制禁
為 作右ヱ門家業失ヒ乞悲ヲ国江立願為ニ付ニ
御公儀江御出届有之者他国江対無事御義為

為　思召を以て筆子教奥島岡左衛門九右衛門
一人為家督相下為中並ニ名跡　御法を以今迄大谷
家面并府相續仕候有付金子壱貫目享保三戌十二月廿日
欲出藏ヲ以ニ石洋頭ニ示ス代ニ江戸表府汀梁情ヲ
多分焼失ニ付今而持ニ而ハ焼殘ニ書記ニ向為親
相由地ニ深ク抑家世代ニ疑ニ書記者や
能筆ニ大谷家元祖是や何渡海祖勝宗殿
其ニ別紙有ニ略記ニ何渡海村川長加由緒勝宗
故有折紙　御城代ニ何公遂村川市兵衛依義由緒ニ
於河信御能筆ニ書ニ時河信公ニ長持ニ市兵衛連名
及和賴ニ勝宗名筆ニ千種ニ河信公ニ御進雜ニ
勝宗ニ筆ニ志有ニ也　達ニ御断則河信公御帰国
長市兵衛ニ人御下達則江府相法御行中ニ
奉達
御上洛渡海ニ有ニ家ニ従　御帰樽

御大寺新大納様江以　御奉書之為　御名代御手書
以敬仕別紙之和正年分渡海發足奥ハ別紙有之ハ
勝宗俄逝再武志有之故殺殺彼ハ　御書之為ハ有之和
惜哉志於乎為ニ病死ハ　皆ハ臨志之事我勝宗倶別
ヨリ家族ヲ引接渡海之俄相留ハ変ニ而面ハ御
中古ノ大谷姓ニ義秘ハ　御書之為同和大金九拾両ニ而結目
仕国義乎為ハ渡海之由流言勝宗於
御ニ儀ハ二代目相南ニ高者使ハ人ヲ安ニ也婚流
不有ハ分厳等是ハ別紙有略
寛永十三年西ノ御九御本御用為　作者新之妻
寅二月右御用ハ為ハ市之為九拾両ハ友人ハ未府別
御目見為　作者首尾能相勤友人ハ　御時服
年洋成仕頂ハ也恐　御ニ代目ニ
御將軍様御代ニ江事一番ニ西御九御書院御家板
御書棚板ハ　御用ハ勤ハ有年御役ハ御符験
御指九事義

御免至ル今西郡法事

従御看國第子竹鶴左年

松相渡ス由依然之如其

七月渡海ス

第子所人村川市蔵

大谷吉左中上有之建

上軍ハ之ヲ不可有美家

ニ名殺 作者名之

渡海ス下ル 作者名之

永井信濃守 尚政

六月十六日

井上主計頭 正就

左井大炊頭　利勝

酒井雅楽頭　忠世

七年新左衛門殿

右勝宗江戸表

御目見ゟ年番ゟ処同人及老衰病床ニ付嫡子

知恵為代来府夏ハ時

御目見当日相成若殿ゟ京御例ニ成旨

御殿中様決間ニ何信之御答之知恵元勝右

右衛門と改号

御目見首尾能相帰居所信之介勝宗茂

御書面左ニ記ス

知恵ニ百ゝ来れ被之ニ成ル知恵元勝ハ

ニ方遠者ゟ眼病ニ由ニ付ハ成元勝ハ

若藤ヶ谷殿御差仲江戸表ニ罷出首尾能
御用ニ付為勤有之大参ニ成ル事細ハ想助ヶ
為信殿ハ異文ニ成ル事ハ無御座候ハ
一旦又ハ事ニ成ル事ハ仕合ハ竹場ハ用ス
想助ヶ方ヶ渡ハ猶沒音ハ即ち沒ス

打揃ヒ家大郎
政重在判

六月二日

大原左馬助殿

猶ハ想助ヶ於家元代ヶ名乗ハ方今
若藤ヶ様ハ事細ハ想助ヶ合ハ

四月晦日之一翰令被見候、然者度々被成候處
御内々為御代同様御勤之由、同苗五郎太郎
附属ニ而首尾能 御目見ニ被仕合千万
恐悦ニ随而御家中大小其具猶殊ニ存候将又
我等一家之事於国許勤候様、猶期後音之時候、恐惶
謹言

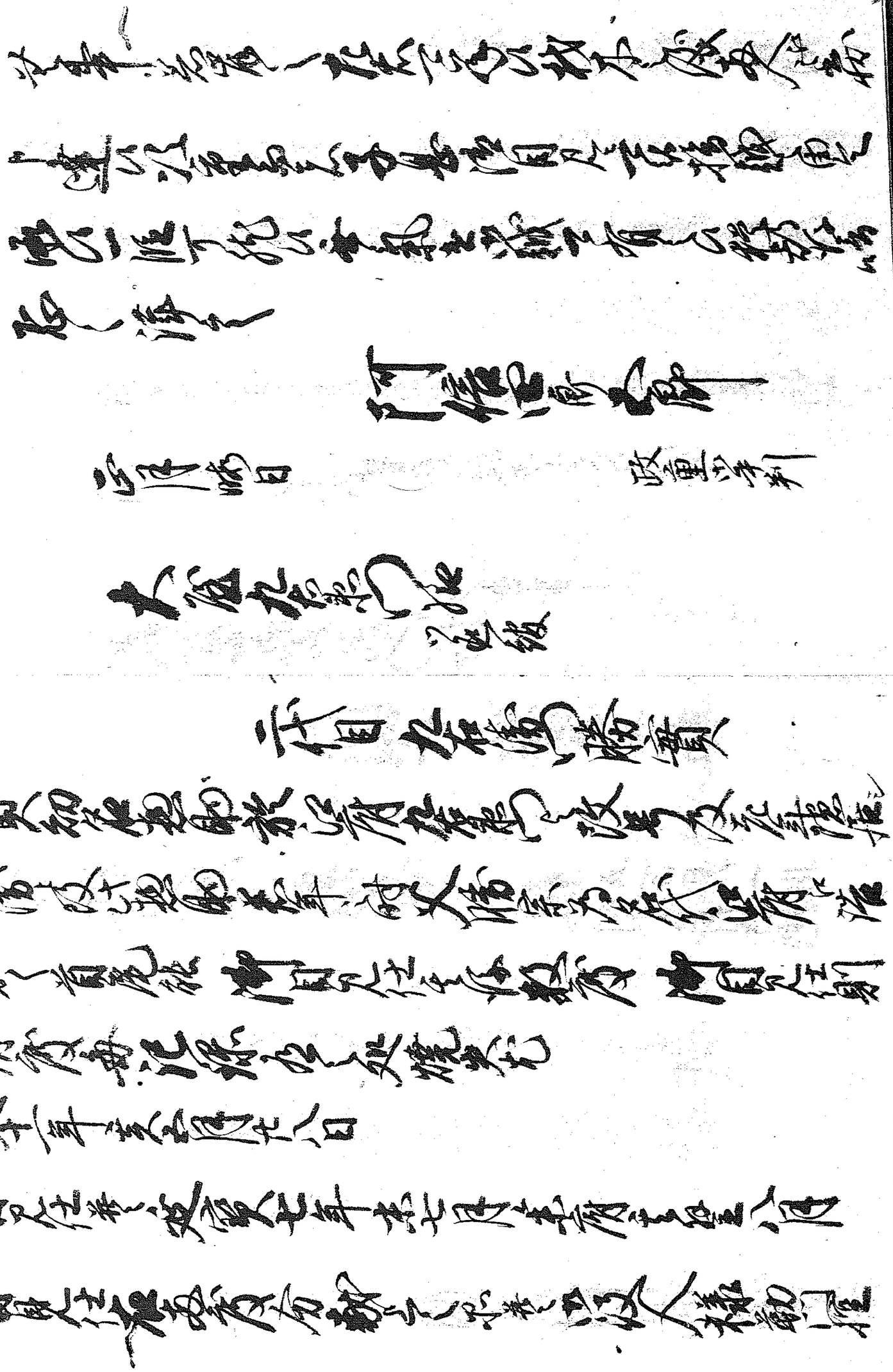
阿信忠右衛門
正義在判

八月晦日

大窪九右衛門殿
御返事

猶々其御地御安全付能御座候御尋候合
我等儀家来各合申候一段出来候

四月八日之御紙面致拝見候、貴様首尾能
公方様江御目見ニ被仰付候由、珍重ニ存候
[illegible]壱束一本呈之候以来者何事も被成候



左近之衛府延享九年一月七月村川市云清壽
ゟ之御達書ゟ弥御発ありし
寛文十一年戌卯月廿八日
御目見仕御門左通

御公方様江獻上箱者　但例之通伊勢龍五百貫一折

酒井雅楽守様
酒井河内守様
阿部豊後守様
稲葉美濃守様
久世大和守様
土屋但馬守様
板倉内膳守様

右之人様江伊勢龍壹貫人一折宛

右井能登守様
城内伺中守様
右若狭守者伊勢龍之介折死
小笠原山城守様
右伺伊賀守様
右安藤門守様

右遠国御奉行に右場龍之介折死

右寛文十一年卯月廿八日勝賀　御目見仕御勘門様
一伊勢海中賀殺高之介勝宗勝賀勝信代殺
御目見仕御部記録之処寛保二年戌十月廿七日義
御大之部殺参焼失之記録分ち手数之事

御目見御式次第御目録書

五月九八日

一御目見御礼相済

未初ノ御礼

綿弐百把金馬代　松平肥前守

綿百把金馬代　松平主殿守

蠟燭箱金馬代　松平筑前守

一　表淳正大獅子着付以使者

蠟燭箱二種一荷送元之使

銀馬代ハ以自分御礼部

又江戸御給法次第同之

西〻英国御使者

御着茶子町人来之

箱着　大谷九郎兵衛

本紙文人　御

一勝寶元寶七年未七月未府之登八月

御目見之　御付以左通

御公方様江拝謁　御馬代金百貫文献

御

酒井雅楽守様
酒井河内守様
稲葉美濃守様
大久保加賀守様
土井能登守様
堀田備中守様
右御老中様江御渡被遊候
松平周防守様
石川主殿頭守様
右若御年寄様江御渡被遊候
板倉石見守様
松平山城守様
右者江御年寄様江御渡被遊候
御公方様御承道
星野道斎
浅木道寿
右両人ハ奥

右陽貴代寛文六年竹島渡海ノ私朝鮮國全羅道
ニ及被流之旨被仰渡ニ則朝鮮國ニ
御礼之順ヲ送帰シ相聚事其例有ル略之朝鮮
國王ヨリ私ニ水牛ニ頭別贈ル二通有ル今度ハ特別
之事ニ付之

漂倭處別贈

頭倭一人　白米貳斗
白紙貳卷

従倭二十一名　白米各壹斗
白紙各壹卷

丙午九月日

巡察使

漂倭二十二人

白米拾肆石拾斗

大口魚壹百拾尾

清酒貳拾貳瓶

東瓜貳拾貳塊

生鮮貳拾貳束

耳醬陸斗陸升

際

丙午十月日

一

第一大臣左右ノ者ニ対シ

渡邊邦四郎朝鮮国ニ使ス

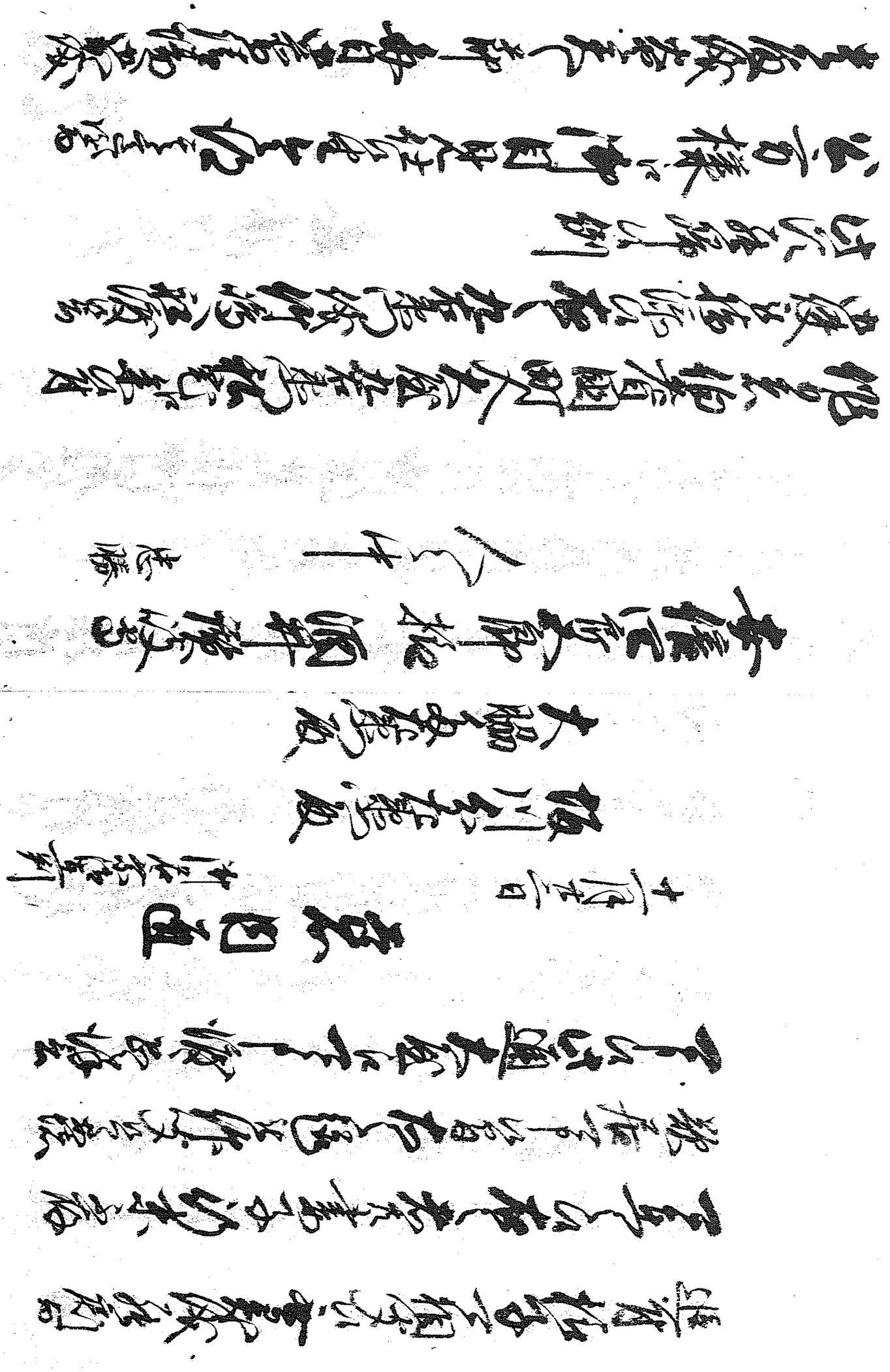
被換ノ人換ノ者ニ答ル

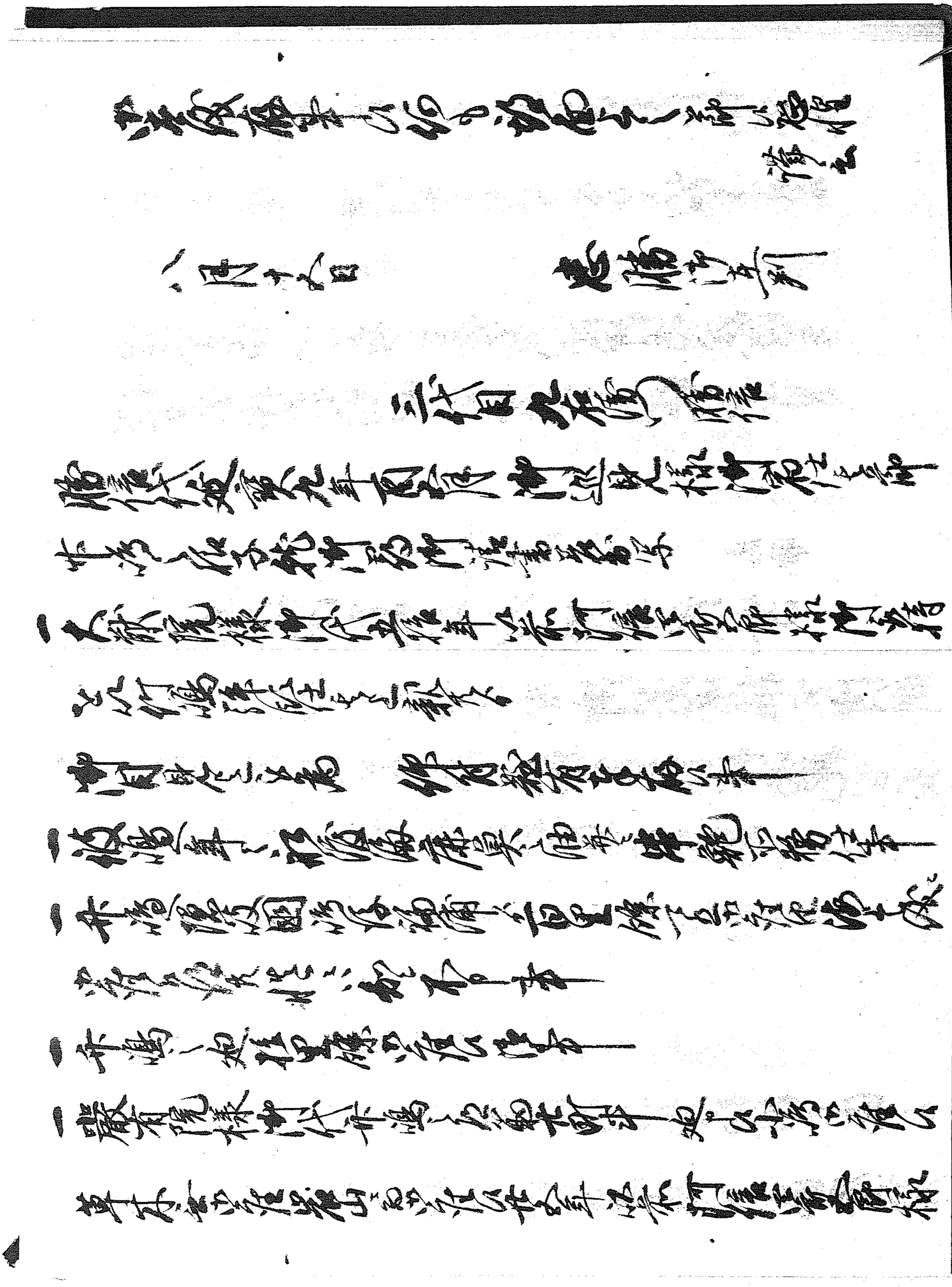
宗対馬殿ニ送使ノ対馬殿

嚴様大坂出藏屋敷ニ来ル

右之趣ヲ対馬殿ヘ之ヲ云

東西ノ者ニ云ヘ





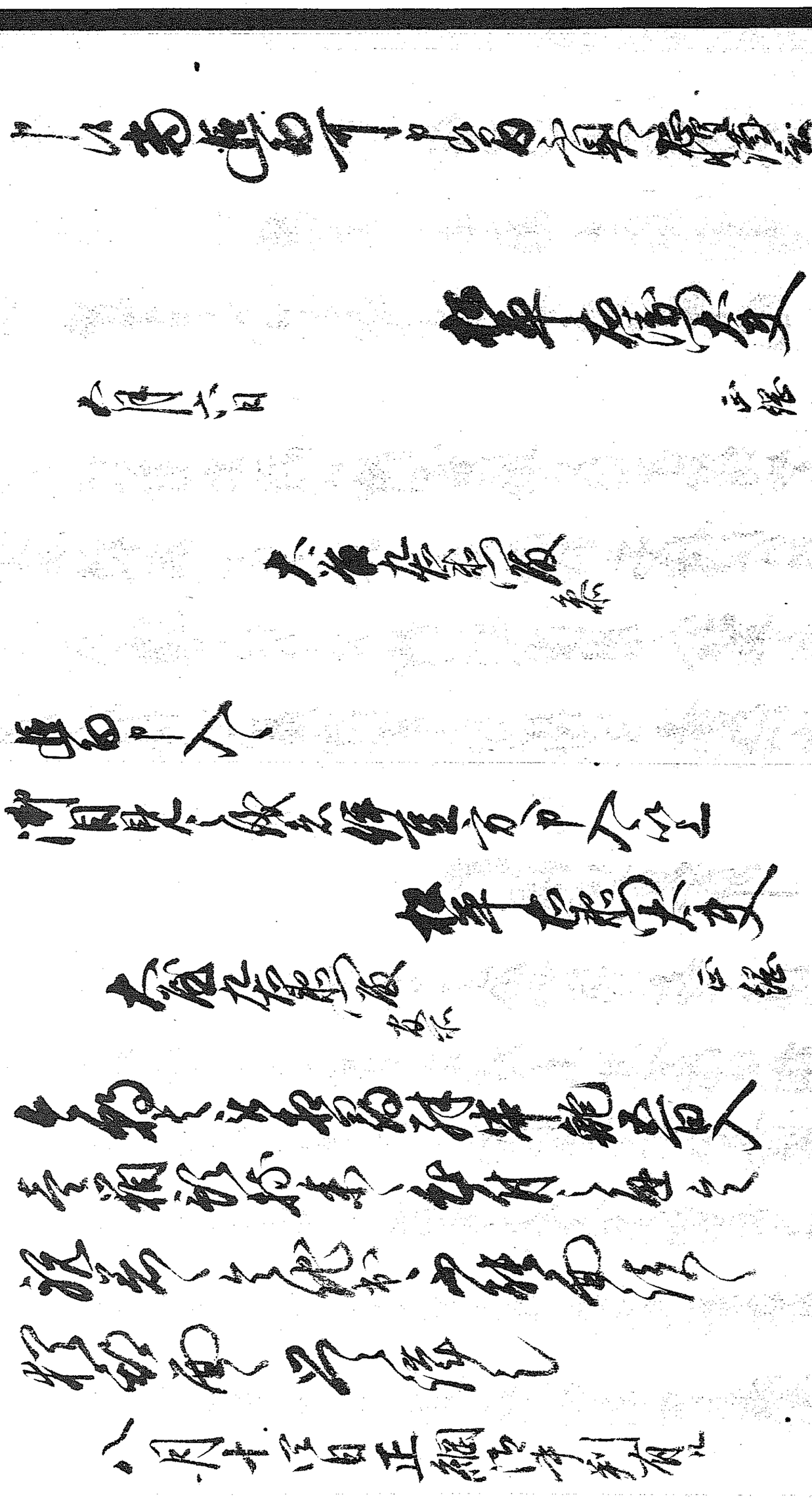
出精を以滞なく相済候ニ付此為ニ御褒美被
少充下置候付此度隠居同様拾補々御
六拾里余ニ出雇候事

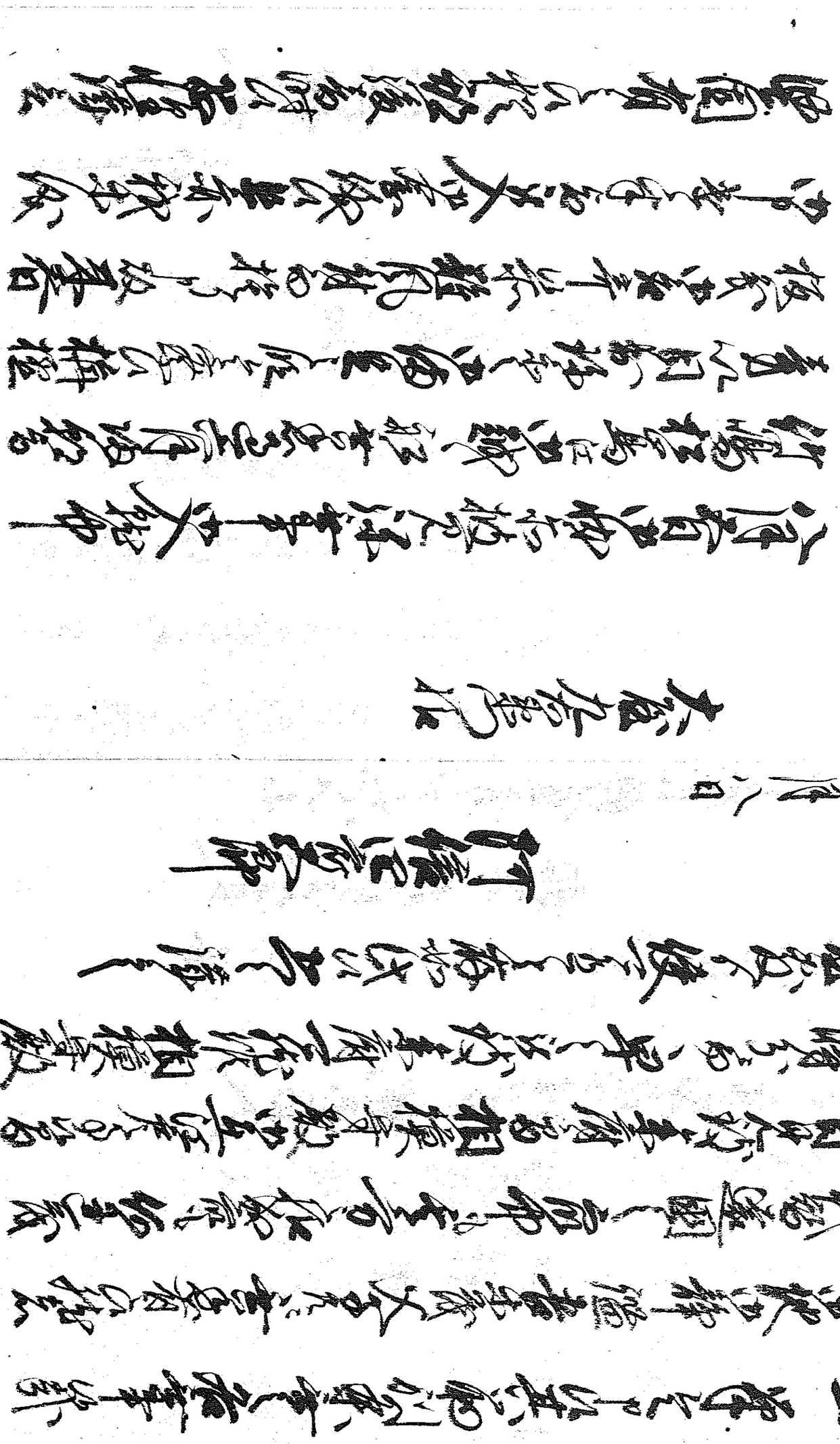
五月廿二日

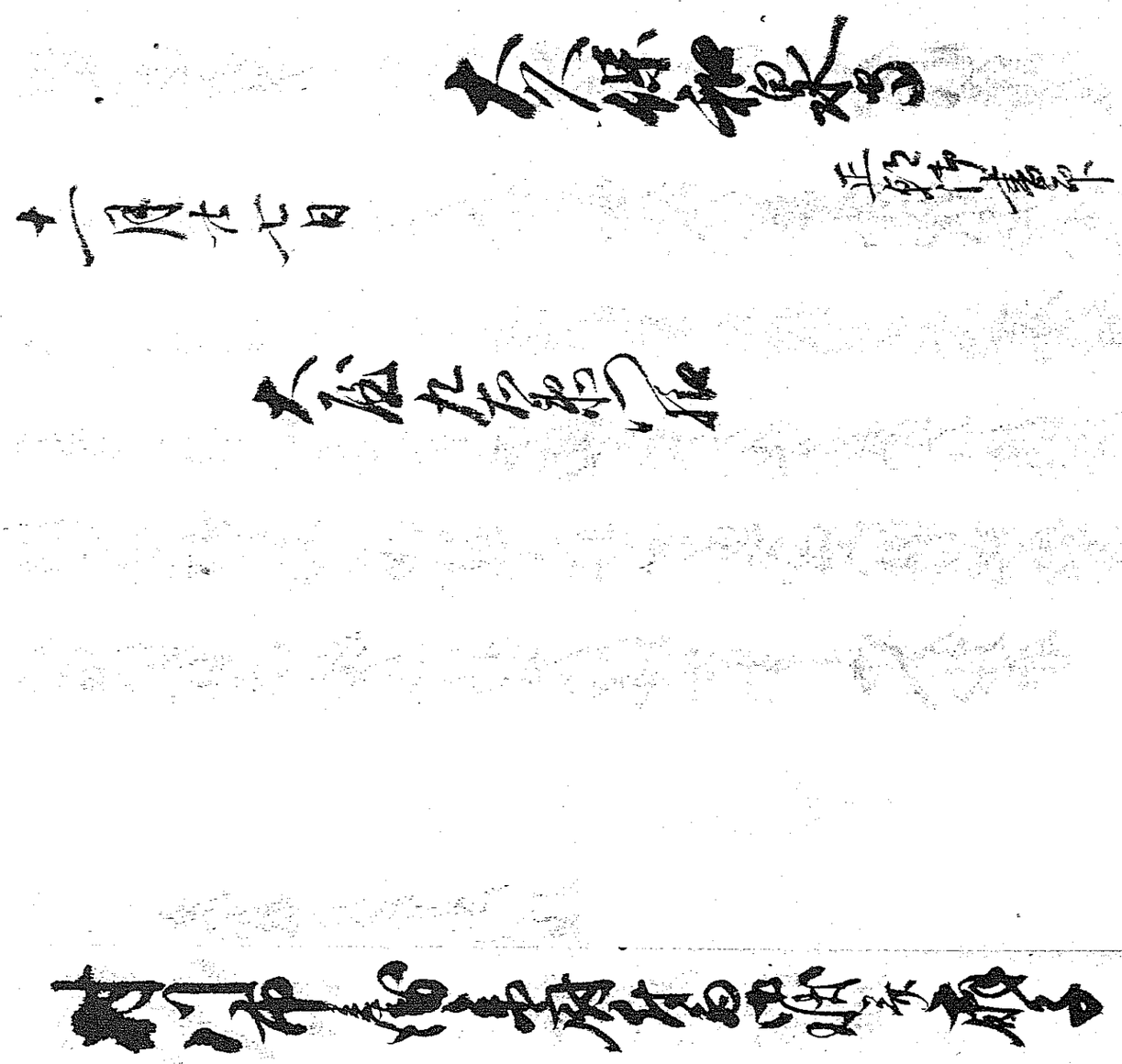
右之通御請書仕候事

右勝信自分貞享貳年丑二月廿八日忌明
公方様江御目見之節 作物以江御馬飾 二疋
献上仕候も献上之為御礼御老中様方御側
御用人様方若御年寄様方 寺社御奉行
様江茂進上仕候 御側御用人松平備前守様
御書被成下候ニ付数代不相持仕候天年
焼失仕候ニ付右様之御書類自然焼失

一 寺中へ之絵ニ而其外寺中
之自分名物持参之儀相成兼
方々日光山中ニ而披露







本書ハ当役所ニ控置候間写可相渡もの也

大久保和泉守
西銘御判

七月晦日

大庭九兵衛殿

代官　九兵衛 勝房

勝房七歳時父勝信卒別家藤右衛門後見未時之孫

六年程

御代儀被仰付　再元勝房未々初年後見藤右衛門九兵衛

ちとて藤右衛門被仰付　信敬ニ家督ニ被仰付七年甲

被仰付藤右衛門依て九兵衛ニ被仰付被仰付大名跡七甲

被仰付八拾人日割之通

右之様ニ　御目見被仰付　結構之格之通

一御目見之儀相勤候ニ付而御目見被仰付候勝房

左通

大炊御門経頼卿家司

秋中但馬守様

門信長後守様

加藤信濃守様

戸田山城守様

内藤丹後守様

大原相模守様

松平弾正守様

右侍従中

文亀元年十月

松浦壱岐守様

松田治部守様

牧野伯耆守様

戸田弾正守様

右

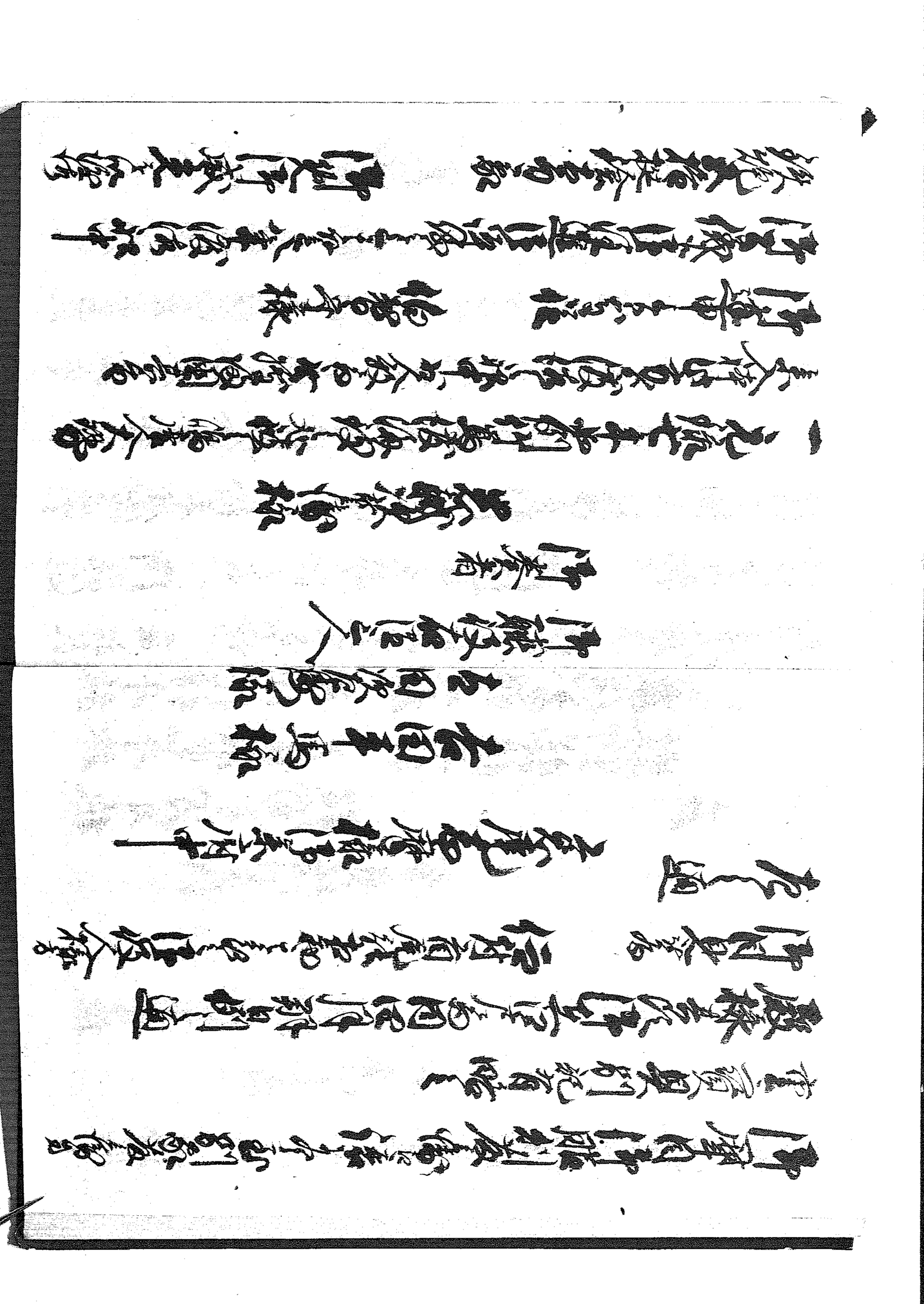
松浦壱岐守様

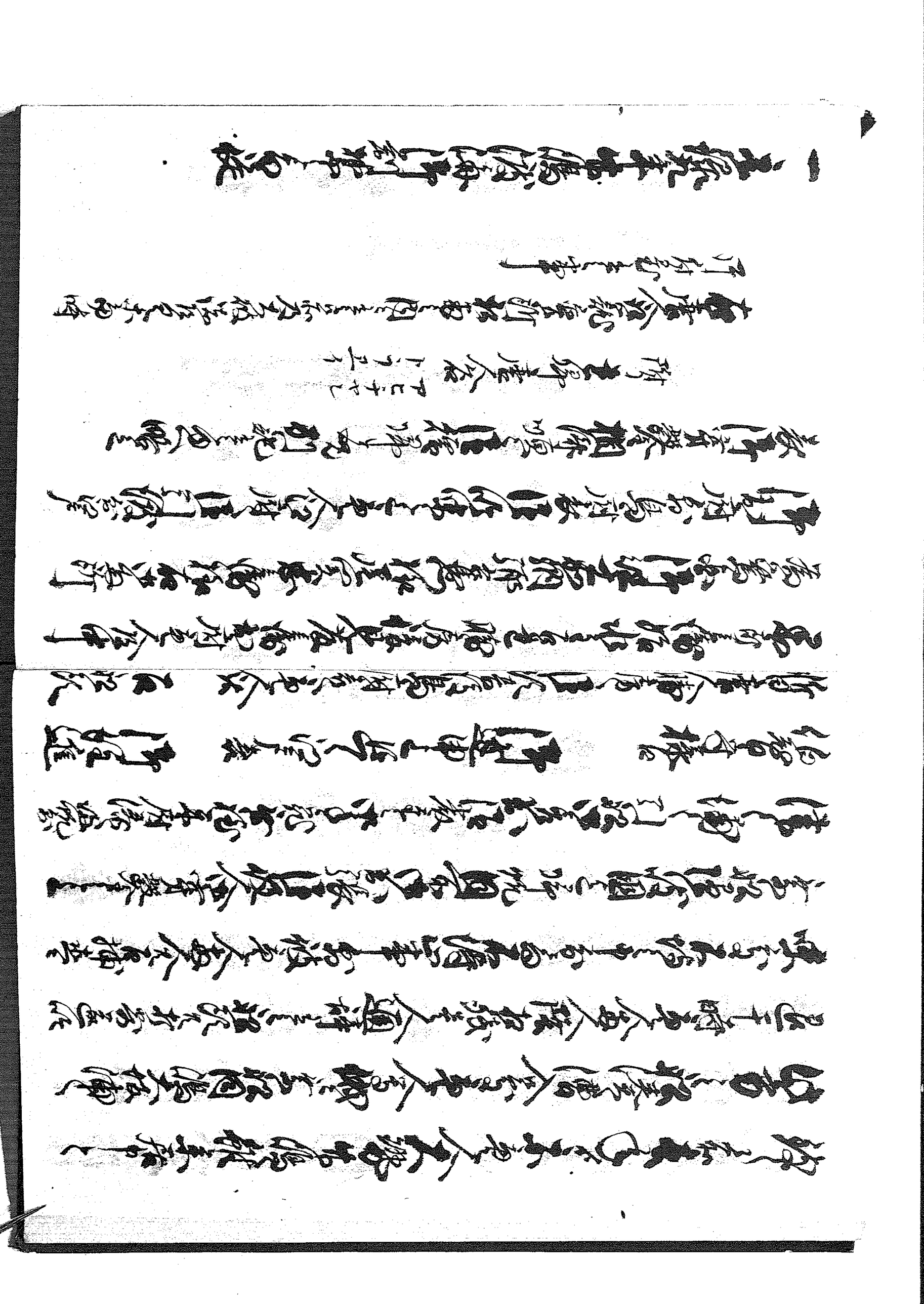
文亀元年十月

右

久世右馬之守様

右通有尾張相模国産史　弾正





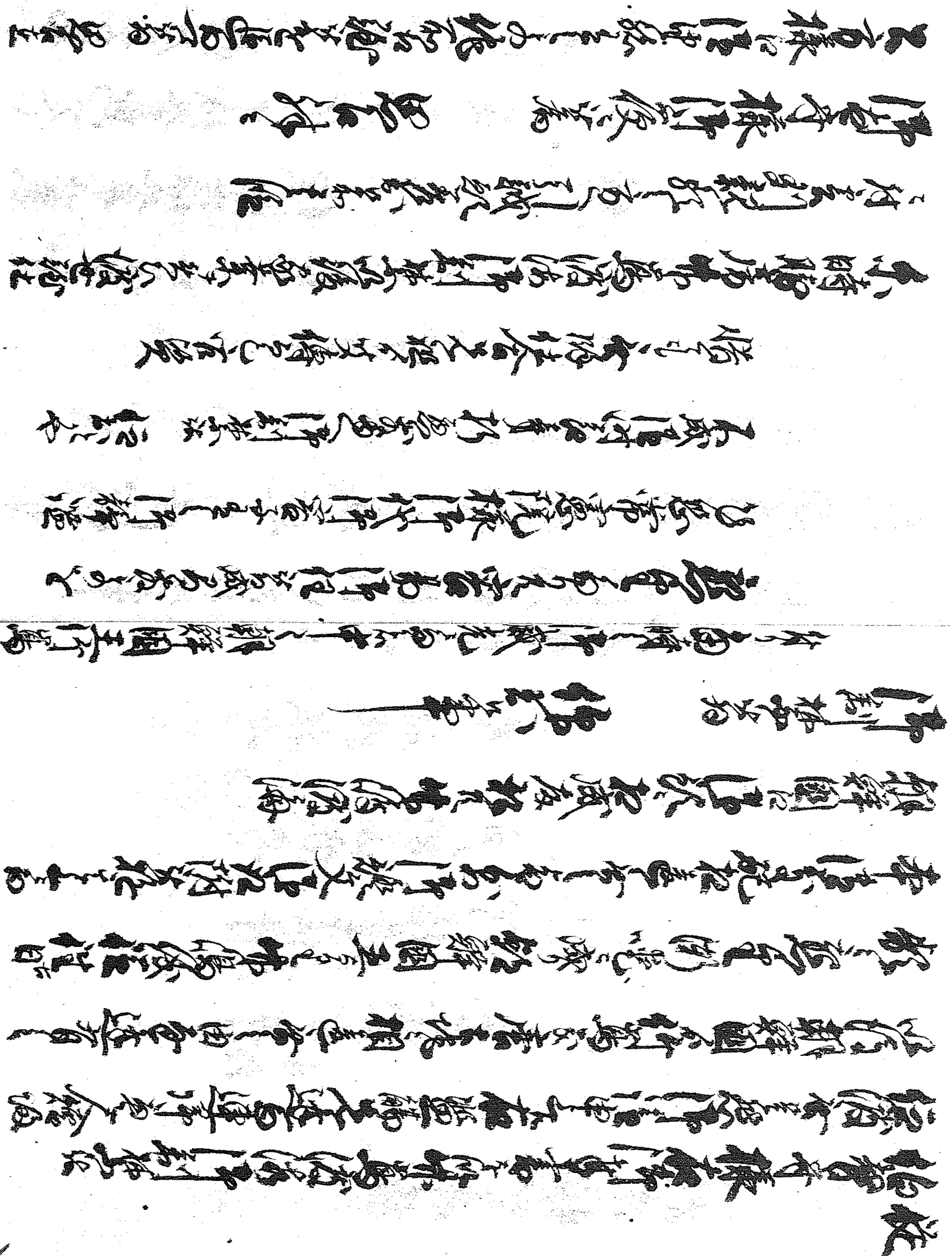
御老中様因伯之御守伯耆守様江
御奉書之写 [illegible]

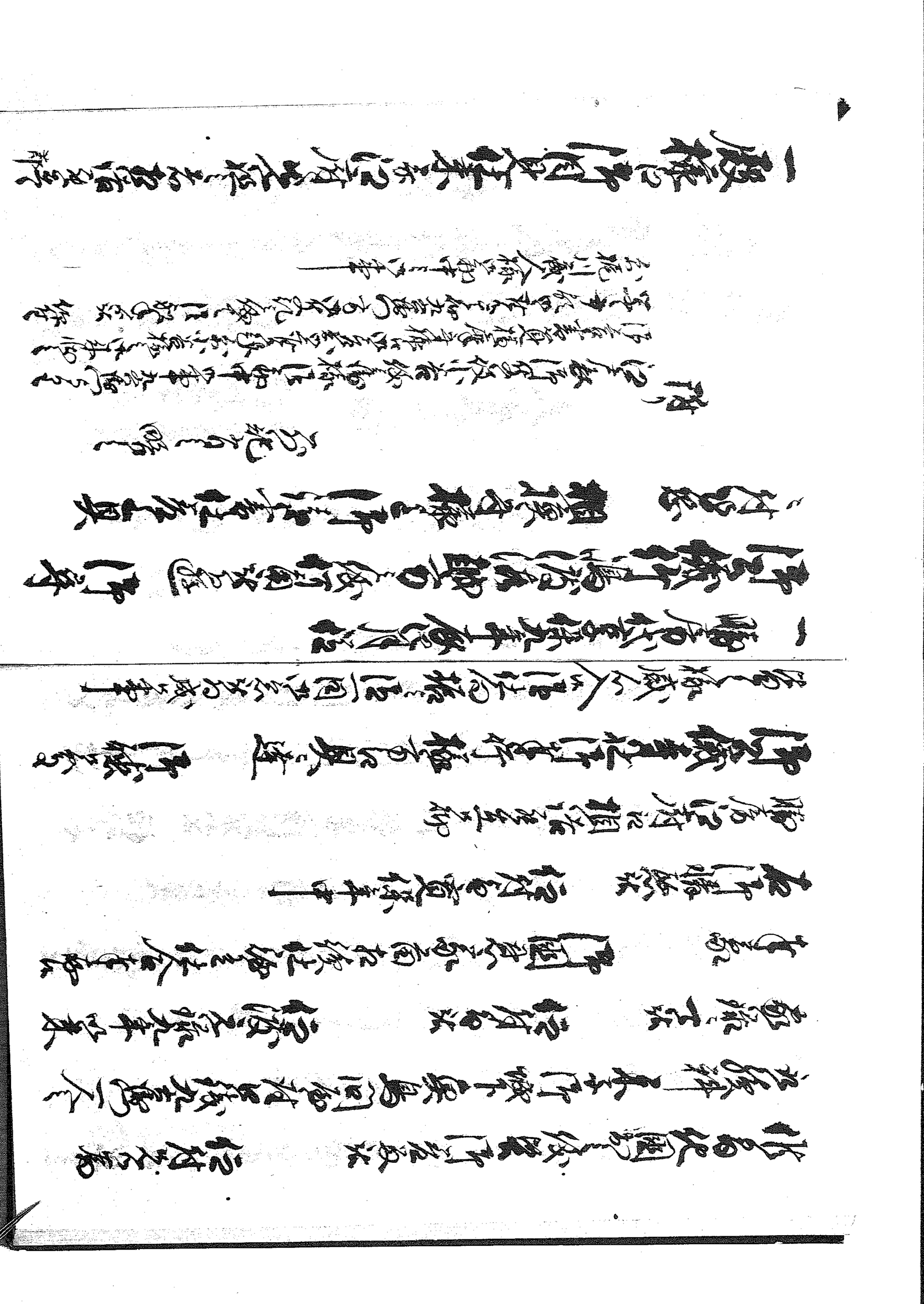
先年松平新太郎因州伯州
領知之節相窺之伯州米子之町人
村川市兵衛大屋甚吉竹嶋江渡
海至于今雖致漁猟候向後竹嶋江
渡海之儀制禁可申付旨被 仰出候
間可被存其趣候恐々謹言

正月廿八日

土屋相模守
政直
戸田山城守
忠昌
阿部豊後守
正武
大久保加賀守
忠朝

松平伯耆守殿





御用書　御対馬藩宗摩中

殿様　御交代ニ付遠御使者ニ来ル

対馬国ニ御用人極ニ付切紙被遣

佐内

大炊介殿様　河村義十郎

芝増寺ニ参ル

以紙申入候十五日

ニ付出羽寺迄ニ参ル

市谷ニ付ニ参ル

十二月十二日

大炊介殿様　河村義十郎

芝増寺ニ参ル

牧仙右衛門ニ参ル

以紙申遣ル

御用ニ付　佐内

御左書ニ付ニ参ル

十九日

大若九郎殿　　竹村義十郎
長谷寺五人　　豊泉寺五人

竹内新兵衛殿

於　信濃国佐久郡

正月十九日　　竹村義十郎

大若九郎殿　　豊泉寺五人

長谷寺五人

竹内新兵衛殿

信濃国佐久郡

正月十九日

一大慶院様御代御立国之郡事記

竹内之後書延享元年子八月廿二日

御継面記

御代官佐久郡御代官

大若九郎殿　　木尾主馬殿

長谷寺　　竹村義十郎

竹内新兵衛殿

御触書之写

八月廿六日

大岩九郎殿
井尾金右衛門
上村惣右衛門

長為申入候趣相心得以使可申来
猶又入用之儀も候ハヽ何分可申遣し
以右之趣申入可申候以上

大岩九郎

三吉城御在国之節

未記

御目見致候者江　信人

子八月廿六日

一殿様御在陣之御役義服用候儀　信好

奉行衆仕置中右之御時服御下御所持仕候由

右御代官心得有之候儀此節相心得

焼失ニ付而相明之内御服御下御預所仕候

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月晦日　[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御復進申上候得ハ竹嶋之儀ハ既ニ蒙御許容
候處爲之渡海仕来候處ニ付差合申候儀ニ而見候
處申出候ニ御察　御家老中ニ茂御承知ニ而候
事之御承知申上候竹嶋之儀ニ付御書翰之
御趣意ニ候　信対申聞候處ニ而御用之様ニ
渡仕向御断之為に申入首尾能御請綱
申事ニ付而ハ元禄之中右竹嶋之儀ニ付申付
同断　御復進申上候者日本之御住居ニて御
朝鮮国江御付被成候ニ付此而渡海不仕候様ニ被仰
付候處元禄六七八年ニ渡海仕候所来年之人を申合
在候中ハ無御座候間御断之申上候ハ申入之候
文之朝鮮国江差出候朝鮮国王江右竹嶋日本之地ニ而
申上之候御返翰ニ而申付候處御申儀ニ御座候
御書翰之様ニ相見申候ニ付　信付申出候由ニ付
三之通渡海被申付之御制禁ニ候
信対守様ニ而御書翰ニ付而ハ此事之筆ニ相見

右様之者万一之節ハ 追進中より段々目立候御
為ニも相成可申哉与奉存候右之趣ニ而ハ心得違之者
も有之候間 御慈悲を以御聞済 被成下
被成下候ハヽ難有仕合ニ奉存候以上

仙台国分町 町人
大谷九兵衛

寛保元酉年六月十日

上方
御奉行所様
御役人中様

右之通口上書差上申候事

一 上野宮様ハ御由緒之儀ハ大徳院勝房公会所ニ被為入
候而ハ東都ニ住居仕罷在候御祈願所ニ成
候間 主水右衛門 上野様方御役之御披露人指出申候
清水右衛門大納言様御用中将様家 御意ニ而主人
ニ付右徳川氏将軍勝房公御入魂之家 御意
甚之勝房御定数被為成候別右

御母君様御自筆

宮様に勝房なる人御使御書筆法書て

御付の事　御使を養仕勝房に府生下に元文

四年未九月晦日上野に参山端夏大雨法師寺領に

中間清水御母君様御書を申て参る御付

百里小路氏邪に横法に成敗

宮様御参宅事　十五日勝房上洛　御願に

云　百姓命由緒法師と御坊宮氏邪に横

其方後京邪御参宅に成清水谷の大酒を願中将殿

宮様に御書を法花経　伝紙を対判御受

御付書　御母君様に見後明七日

宮様日光に　御光山を遥て還　御出発下

御付の次　御使を勝十月十五日

宮様御母君参　御付首尾能和御を供合事

尚本其壁年申正月廿六日事始　御母君様　御付

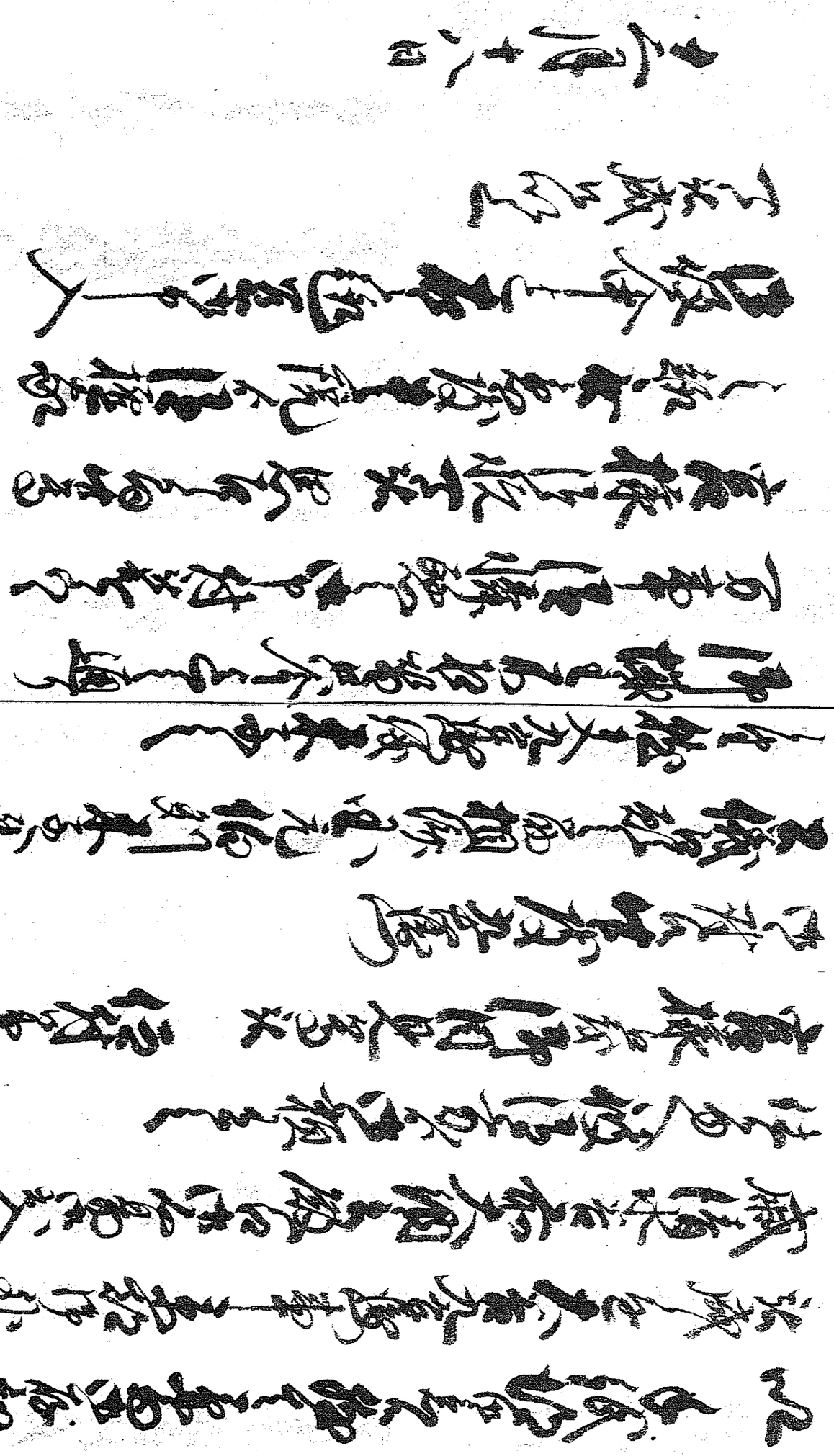
判元文五申子年延享改元子年正五子年ニ為毎年正月

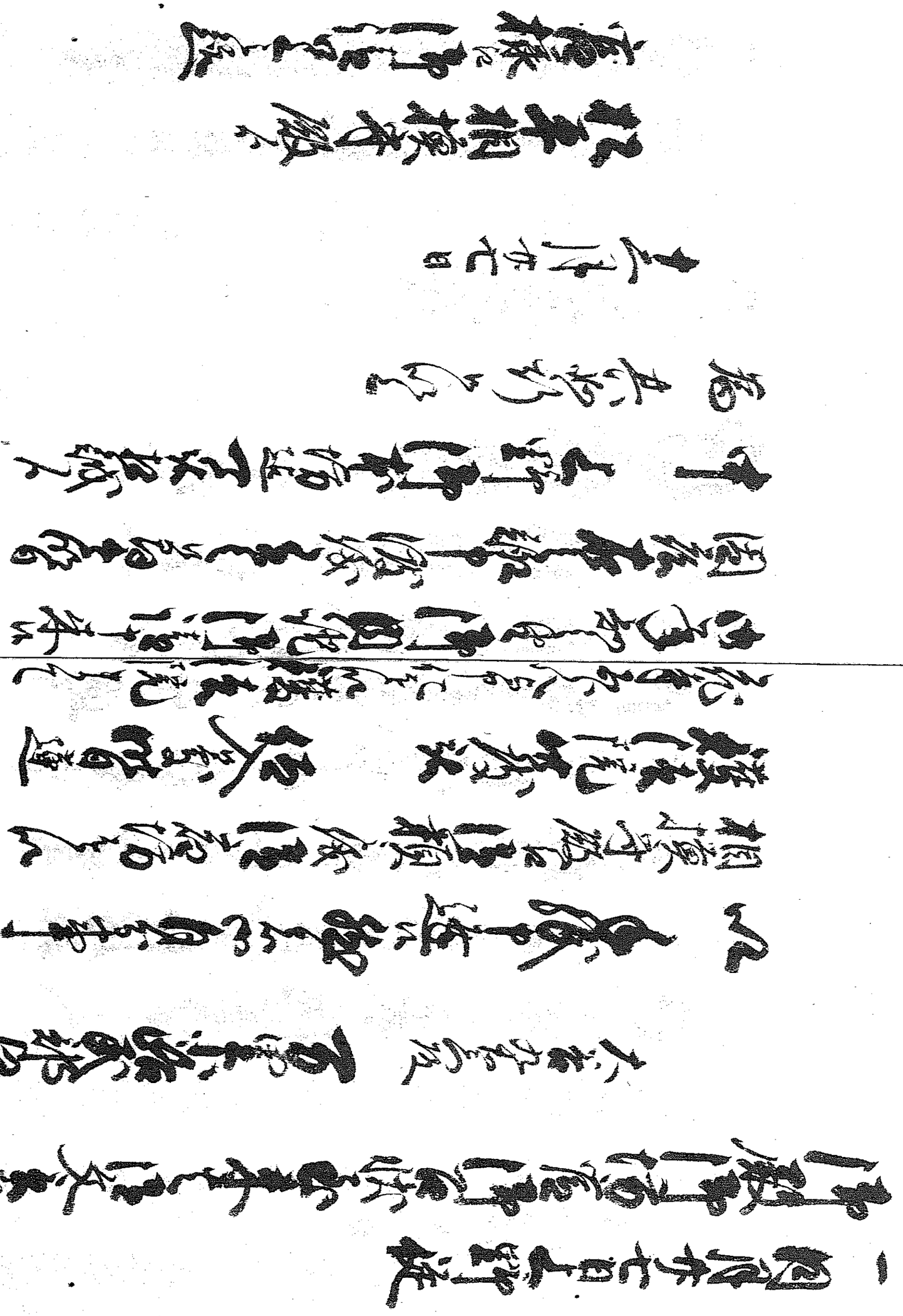
[illegible]日[illegible]五日為[illegible]所用足中之事時房に府[illegible]
[illegible]之意為仕　御儀に[illegible]付紙
宮様　御儀寺社[illegible]牧[illegible]郷中寺様に
龍王院に[illegible]院[illegible]為　[illegible]使[illegible]事に[illegible]紙[illegible]
御[illegible]之[illegible]刑牧[illegible]様[illegible]　御[illegible]
[illegible]中之[illegible]　[illegible]武邪[illegible]様[illegible]
[illegible]命[illegible]用[illegible]　[illegible]寺様[illegible]紙[illegible]
[illegible]令[illegible]　清水谷[illegible]様[illegible]
[illegible]頼[illegible]為[illegible]
[illegible]意[illegible]紙[illegible]成[illegible]地[illegible]仕[illegible]事

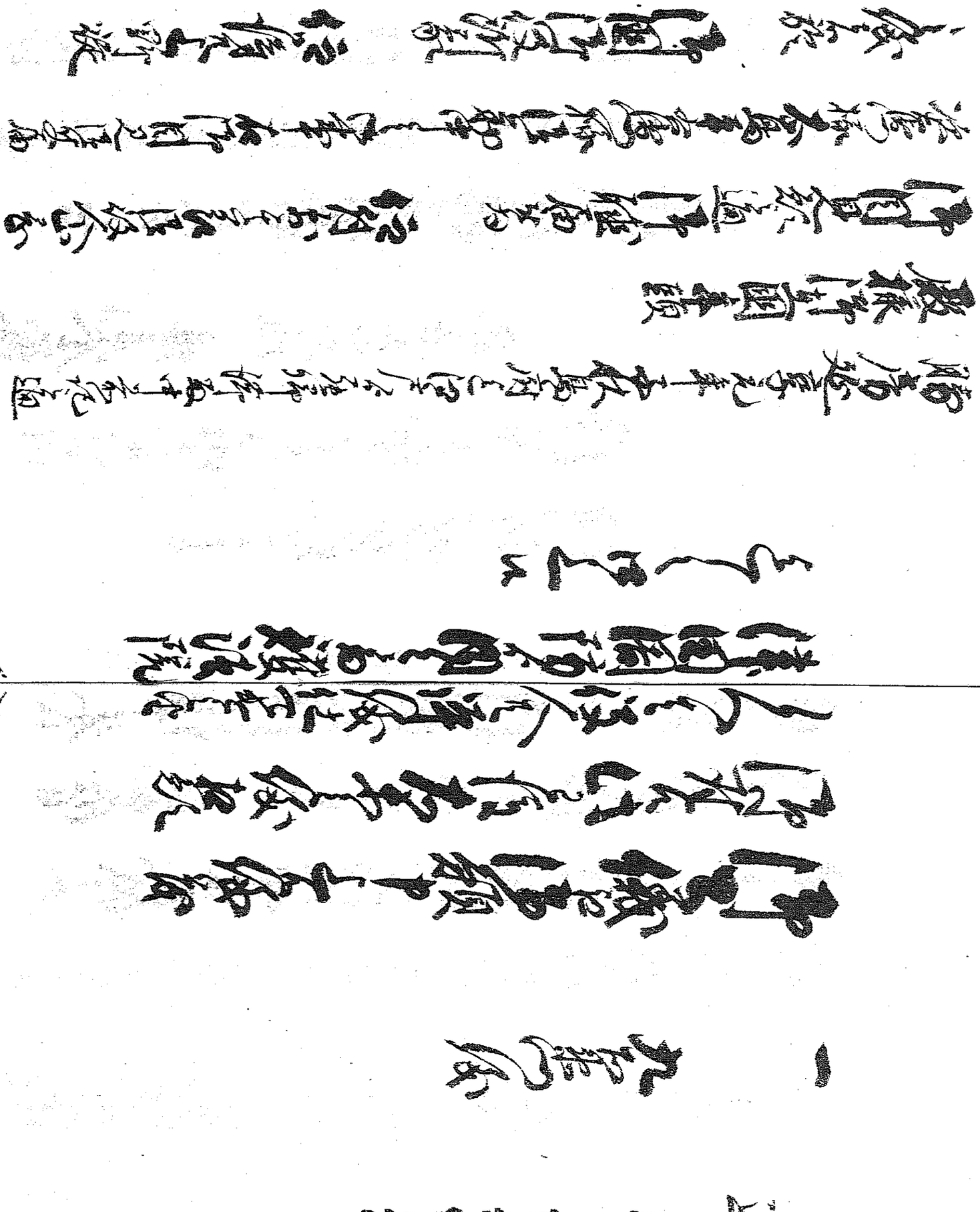
一寛保元年酉十月十八日[illegible]野紙
宮様　時房[illegible]用[illegible]
御[illegible]寺様に[illegible]法院[illegible]御[illegible]
[illegible]寺[illegible]

護法院

百[illegible]治氏邪[illegible]







高様益御堅勝　御喜悦候段御満足ニ被思召候段御満悦

今般遊候ニ付先年之品ヲ相越候段御感被思召候旨

此旨　御尾州様ヘ御序ニ被仰達候様ニと也

大谷九右衛門殿　千虎余鶴

御同人ヲ以是又去ル暮目録ニ付

御紙面ニ　了承致候

卯九月廿七日

去ル卯十一月八日付御勝房御紙面ニ致拝見候御切紙并

以

猶以御書写在之候

大谷九右衛門　印

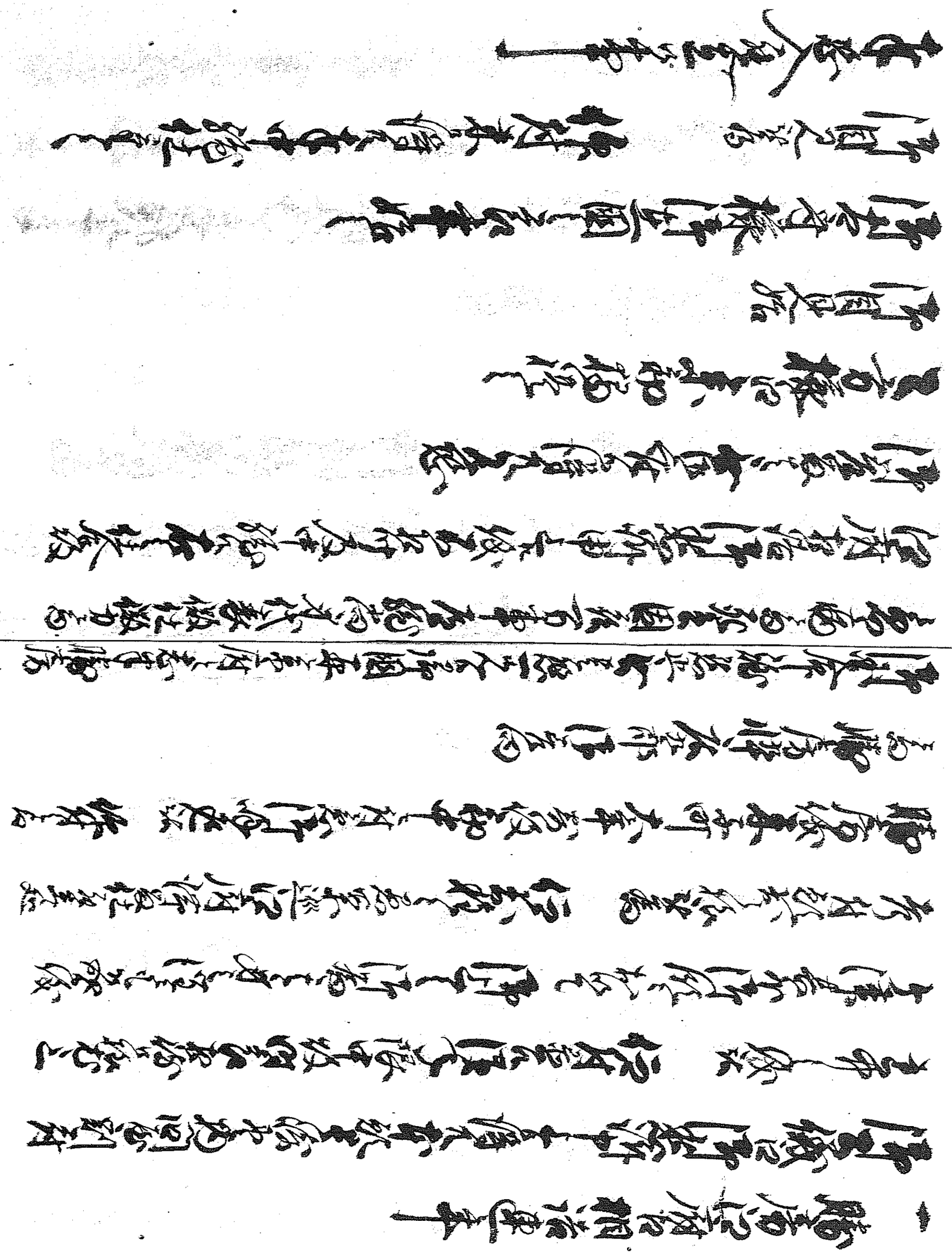
其方儀上野

高様益御機嫌

御喜悦被成御座

御目出度存候

猶後便可申候



[illegible]

仕將[illegible]

[illegible]

竹鳴渡海[illegible]

[illegible]

[illegible]様

[illegible]様[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中將様御御

[illegible]

遊[illegible]御將[illegible]

御[illegible]日初仕[illegible]

其[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

作付冥加金御免被成候上

大谷兵庫

巳二月

2
271